

2017
年度

第23回 FDフォーラム

FDの
これまでと、
これから
～多様な角度から
FDについて考える～

2018年 3月3日(土) / 4日(日)

京都産業大学 1日目 神山ホール / 2日目 サギタリウス館・12号館

申込期間：2018年1月5日(金)～1月31日(水)
大学コンソーシアム京都加盟大学・短期大学先行申込期間：2017年12月15日(金)～12月22日(金)

FDのこれまでと、これから～多様な角度からFDについて考える～

2007年に大学設置基準によってFDが義務化されてから、10年がたつ。各大学はFD研修会や公開授業を実施し、授業アンケートを行うなどして義務化に対応し、教育力を高める努力をしてきた。この間、アクティブラーニングが加速度的に広まった他、授業アンケートに限らず広く教育学習関連情報を収集、分析し、教育改善に役立てる教学IR、3つのポリシーと質保証などもFDを考える上で重要なテーマとなり、FDそのものの概念も広がりを見せている。そこで本シンポジウムでは、一度立ち止まり、「これまでのFD」によっていかなる成果が生まれたのか、何が課題として残されているのかを整理し、「これからのFD」をどのように展開し、いかなる大学教育を実現しようとするのかを考える契機としたい。そのために、4人のシンポジストを招き、全国的・政策的な視点、国際的な視点、現場の視点など、多様な角度から講演いただく。そして参加者同士の議論を通じて、さらに多様な角度から、これまでのFDとこれからのFDを考えていただきたい。

シンポジスト



林 剛史氏 文部科学省 高等教育局大学振興課 課長補佐

経歴

2004年文部科学省入省。これまでに高等教育局専門教育課係長、初等中等教育局初等中等教育企画課専門官、静岡県教育委員会義務教育課長を経て2017年より現職。

主な活動、著書

現職では学校教育法・大学設置基準等の法令を所管し、大学改革の企画・立案に携わる。また、各種団体・各大学でのFD・SD等において講演活動に取り組んでいる。これまでに教職大学院制度の創設(2007年)、教育委員会制度改革(2014年)などに関わる。



梅本 裕氏 学校法人京都橘学園 理事長

経歴

東京大学大学院教育学研究科博士課程単位取得退学。京都橘大学文学部教授、京都橘大学教務部長、副学長を経て、現在は学校法人京都橘学園理事長。京都橘大学国際英語学部教授。

主な活動、著書

元々の専攻領域は教育方法学。言語技術教育に研究的関心を持ち、日

本の子どもたちに論理的思考を育てるべくディベートや作文の授業づくりに取り組んできた。日本教育学会、日本教育方法学会、日本カリキュラム学会会員、全国教室ディベート連盟元理事・元近畿支部長。この10年間は学園の理事長を務める。主著：『おとなのいのちの教育』（河出書房新社、共著）『海外の「総合的学習」に学ぶ』（明治図書、共著）『世界の教育課程改革』（民研、共著）『GDM英語教授法の理論と実践』（松柏社、共著）『教師』講座 現代社会と教育第5巻（大月書店、共著）など。



森 朋子氏 関西大学 教育推進部 教授

経歴

ケルン大学哲学部Magister修了。大阪大学言語文化研究科前期・後期課程修了。博士(言語文化学)。島根大学准教授を経て現職。

主な活動、著書

専門は学習研究。授業における学生や生徒の学びを対象とする。その

中でも特に学習者が「わかった」と感じるその構造や獲得するまでのプロセスを定量・定性的に捉えることに研究の軸を置いている。現在は関西大学の内部質保証・向上を担当し、教学IRを含め、教育のブランドデザイン作りに携わっている。『アクティブラーニング型反転授業 理論編』ナカニシヤ出版、2017(編者)。『アクティブラーニング型反転授業 実践編』ナカニシヤ出版、2017(編者)。『教育の方法と技術』ナカニシヤ出版、2017(共著)。



佐藤 浩章氏 大阪大学 全学教育推進機構 教育学習支援部 准教授

経歴

北海道大学大学院教育学研究科博士課程単位取得退学。博士(教育学)。愛媛大学教育総合センター講師、教育企画室准教授・副室長を経て現職。

主な活動、著書

『大学』×『教育』×『イノベーション』をキーワードに、日本の大学教育の質向上を使命としている。授業・教授法、カリキュラム改革、組織デザインに関するコンサルティングや研修に取り組む。近著に『講義法(シリーズ大学の教授法)』玉川大学出版部、2017。『大学のFDQ&A』玉川大学出版部、2016。『大学生の主体性を促すカリキュラム・デザイン』ナカニシヤ出版、2016。『大学教員のためのルーブリック評価入門』玉川大学出版部、2013(監訳)。

コーディネーター



西野 毅朗氏 京都橘大学 教育開発支援センター 講師

経歴

同志社大学大学院社会学研究科後期課程修了。博士(教育文化学)。2016年より現職。

主な活動、著書

よりよい教育と学びの実現を目指し、学内外における組織的な教育開発支援や授業改善支援を行っている。また学生の成長過程とその要因に関する研究、高等教育開発過程に関する研究を質的アプローチで進めている。近著に『アクティブラーニング(シリーズ大学の教授法)』(玉川大学出版部、共著)『大学のFDQ&A』(玉川大学出版部、共著)があり、現在『看護教育』(医学書院)の連載「授業をよくする!教育関連理論」を執筆中。

●スケジュール

	時間	内容	会場
3月3日(土)	12:00	受付開始	神山ホール
	13:00~17:00	シンポジウム	
	17:30~19:00	情報交換会	並楽館2階
3月4日(日)	9:00	受付開始	サギタリウス館 及び 12号館
	10:00~12:00	分科会(午前の部)	
	12:00~13:30	休憩 ポスターセッションコアタイム	
	13:30~15:30	分科会(午後の部)	

※午前と午後は同じ分科会への参加となります。申込みをされた分科会以外には参加することはできませんのでご注意ください。

※ポスターセッションコアタイムには、発表者がポスター前で参加者の質問に答えます。

※荒天等により、スケジュールを変更または中止する場合がございます。ご了承ください。

第1分科会

定員100名 優先定員60名

学生ファシリテータ／スチューデント・アシスタント協働型の授業と学び場づくり:実践事例と将来像

大学の授業は、特定の学部・学科の学生が集う専門教育授業や、複数の学部・学年の学生が混合した共通教育授業など、多種多様である。本分科会では、①学生がファシリテータやスチューデント・アシスタントとして授業やその他の学び場に参画する2つの事例を見聞する、②専門家からのコメントを共有し、意見を交わす、③自身の所属大学等において、どのような取組が今後あり得るのかを、ワークショップ形式により登壇者と参加者が共に考える。

コーディネーター 鬼塚 哲郎氏 京都産業大学 文化学部 教授
 報告者 中井 歩氏 京都産業大学 法学部 教授
 大谷 麻予氏 京都産業大学 教育支援研究開発センター コーディネータ
 鈴木 陵氏 京都産業大学 教育支援研究開発センター コーディネータ
 指定討論者 山田 剛史氏 京都大学 高等教育研究開発推進センター 准教授

第4分科会

定員100名 優先定員60名

サイエンスリテラシーを養う横断型プログラムのデザインと運用—統計教育、融合型理科実験、実践交流サイトモデルを話題に—

前回FDフォーラム分科会で浮かび上がった「部局横断的STEM教育」や「授業のTIPS蓄積・交換」についてのデザイン・運用の報告と、フロアディスカッションを企画する。サイエンスリテラシーのベースである「統計学」教育のデザイン、体験型の数理教育である「融合型理科実験」を題材に横断的STEM教育を議論したい。また、STEM教育実践の交流サイトモデル提案を通じてTIPSの蓄積・共有を議論したい。

コーディネーター 上野 嘉夫氏 京都薬科大学 基礎科学系 教授
 報告者 斉藤 準氏 帯広畜産大学 講師
 中村 教博氏 東北大学 高度教養教育・学生支援機構 教授
 宿久 洋氏 同志社大学 文化情報学部 教授

第2分科会

定員100名 優先定員60名

どうしている?どうしていく?各実習の評価—看護系実習、福祉系実習、教育系実習、資格系実習—

看護系、福祉系、教育系、(資格系)における実習の評価を大学としてどのように解釈し、評価していけばよいのかを改めて検討する。実習では、大学側が評価の観点を示していたり、実習先が観点を用意していたり、評価方法にも様々な方法が見受けられる。本分科会では、実習先から返ってきた評価を、大学としてどのように扱い、どのように学生にフィードバックし、最終評価としていけば良いのかを考える。

コーディネーター 平田 豊誠氏 佛敎大学 教育学部 准教授
 報告者 山川 正信氏 宝塚大学 学長
 岡崎 祐司氏 佛敎大学 社会福祉学部 学部長/教授
 谷塚 光典氏 信州大学 学術研究院教育学系 准教授

第5分科会

定員70名 優先定員40名

高次の能力を捉えるための評価—どのような評価がどのような能力を捉えることに適しているのかを課題づくりも含めて考える—

昨今、アクティブ・ラーニングの趨勢とともに、高次の(統一的な)能力の評価法に関する議論が多く行われている。しかし、例えばルーブリックなど評価基準への注目は集まっているが、当該の能力を可視化するための課題の作成やその良し悪しの検討といったことに関する議論はまだ発展の途上にある。そこで、日本の高等教育研究における教育評価の第一人者とともに、高次の能力を捉えるための評価と課題づくりに関して議論する。

コーディネーター兼討論者 斎藤 有吾氏 京都大学 高等教育研究開発推進センター 特定助成
 報告者 大塚 雄作氏 独立行政法人大学入試センター 副所長
 松下 佳代氏 京都大学 高等教育研究開発推進センター 教授

第3分科会

定員100名 優先定員60名

リベラルアーツ教育の展望

本分科会では、今日の高等教育におけるリベラルアーツ教育が直面する課題と展望について、様々な視点から議論する。今日の高等教育におけるリベラルアーツは、その意味において変奏を重ね多義的なものとなっている。こうした現状に鑑みて、リベラルアーツ教育が直面する諸問題と、教育現場で起こっている様々な課題について幅広く議論し、リベラルアーツ教育のあり方を複眼的に模索することを本分科会の目的とする。

コーディネーター 大川 淳氏 京都ノートルダム女子大学 人間文化学部英語英文学科 講師
 報告者 毛利 勝彦氏 国際基督教大学 教養学部アーツ・サイエンス学科教養学部長/教授
 室田 真男氏 東京工業大学 リベラルアーツ研究教育院 副研究教育院長/教授
 白井 聡氏 京都精華大学 人文学部総合人文学科 講師

第6分科会

定員70名 優先定員40名

体験・実践型学習におけるフィールドワークを通じた効果と運営上の課題

近年、学生を地域社会等に連れ出して教育を行う体系である「体験・実践型学習」を行う大学が増えてきている。このような学習は、学生にとって社会での課題を身近に知ることにつながり、その解決策を考えるのに役立つと言われている。そこで、本分科会では、「体験・実践型学習」によって成果をあげられている大学の事例を紹介して頂き、学生の理解度や意識が変わるにはどのように進めていけばいいかを参加者の方とともに検討する。

コーディネーター 道和孝治郎氏 京都学園大学 経済経営学部経済学科 准教授
 コーディネーター兼討論者 葉山 勉氏 京都精華大学 デザイン学部建築学科 教授
 報告者 木原 麻子氏 京都産業大学 現代社会学部 准教授
 豊田 祐輔氏 立命館大学 政策科学部 准教授

情報交換会

並楽館2階

1日目 2018年3月3日(土) 17:30~19:00

※分科会はいずれか一つお申込みいただけます。
 ※分科会の詳細につきましては、大学コンソーシアム京都HPにも掲載しております。
 ※大学コンソーシアム京都加盟大学・短期大学の先行申込期間には、優先定員を設けます。

第7分科会

定員70名 優先定員40名

情報セキュリティ教育 —教養教育として、専門教育として—

教養教育としての情報セキュリティ教育について、15年前から「情報セキュリティと情報倫理」を開講されている京都工芸繊維大学からご報告いただき、その後、専門教育としての情報セキュリティ教育に関して立命館大学および京都産業大学からご報告いただく。また、社会が求める情報セキュリティ教育としてJNSAからご講演いただく。講演の後、分科会への参加者を交えて、情報セキュリティ教育の学習・教育到達目標に関して議論を行う。

コーディネーター 藤田 和弘氏 龍谷大学 理工学部 教授
 報告者 梶田 秀夫氏 京都工芸繊維大学 情報工学・人間科学系/情報科学センター 教授
 上原哲太郎氏 立命館大学 情報理工学部 教授
 秋山 豊和氏 京都産業大学 コンピュータ理工学部 准教授
 平山 敏弘氏 NPO日本ネットワークセキュリティ協会(JNSA) 教育部会 部長

第10分科会

定員60名 優先定員35名

地域資格教育プログラムの運営と 大学地域連携のこれから

京都府下の9大学による連携のもと、地域資格制度「初級地域公共政策士」を開発・運用している。本分科会では、連携大学による地域資格教育プログラムのうち、とくにアクティブラーニング科目に関する事例を報告・共有し、地域資格教育プログラムが抱える課題や今後の方向性について議論する。さらに、地域の現場のニーズに対して本資格教育プログラムが果たしてきた成果をふまえながら、大学地域連携における大学の果たすべき役割について改めて議論してみたい。

コーディネーター 山本 真一氏 京都文教大学 総合社会学部 准教授
 報告者 白石 克孝氏 龍谷大学 政策学部 教授/地域協働総合センター長
 馬袋 真紀氏 朝来市市長公室あさご暮らし応援課 あさご人材創生係長
 長光 太志氏 佛教大学 社会学部 チーフコーディネーター

第8分科会

定員60名 優先定員35名

大学の「出口」とは何だろうか—教養・ シチズンシップ・キャリア・人間教育

大学における教養教育、シチズンシップ教育、キャリア教育、人間教育など、それぞれが想定する大学の「出口」とは一体何だろうか。大学の先には何がある、もしくはあるべきだと考えられているのだろうか。様々な観点から高等教育の「出口」について検討し、現代社会における大学教育と教員の役割を再考したい。

コーディネーター 藤田 義孝氏 大谷大学 文学部国際文化学科 准教授
 報告者 安彦 忠彦氏 神奈川大学 特別招聘教授(元中央教育審議会委員)
 児玉 英明氏 滋賀大学 高大接続・入試センター 特任准教授
 山下 憲昭氏 大谷大学 文学部社会学科 教授
 協力者 澤田 雄平氏 京都府立大学 生命環境学部 学生

第11分科会

定員40名 優先定員24名

学生のパフォーマンス評価を考える: 工学教育と薬学教育を中心に

学生のパフォーマンス評価の中でも、とりわけコミュニケーションスキルや倫理性等の評価のあり方について検討する。具体的には、技術者養成の工学教育の視点からパフォーマンス評価のあり方を、なおかつ薬剤師養成の薬学教育の視点から評価の取り組みを報告いただく。2つの報告をふまえ、指定討論者より高等教育の文脈での倫理的な教育とその教育効果の測定等について、哲学の視点からのコメントをいただく。午後は、午前議論に立脚しながら、パフォーマンス評価に関するワークショップを実施し、参加者とともに検討を深めていく。

コーディネーター兼報告者 鳥居 朋子氏 立命館大学 教育開発推進機構 教授/大学評価室 副室長
 報告者 深堀 聡子氏 国立教育政策研究所 高等教育研究部 部長
 連元 憲祐氏 立命館大学 薬学部 准教授
 指定討論者 田中 一孝氏 桜美林大学 リベラルアーツ学群 講師

第9分科会

定員60名 優先定員35名

PBLの組織的な運用・実践

大学においてPBL(Project based Learning)が実践されるようになってきている。その広がりによって、単体の授業だけではなく、組織的な設計、運営、実践が求められるようになってきている。そこで、本分科会では、組織的にPBLを運営している学部、大学から事例を紹介していただき、どのような形で進めていけばいいのか、ということについて議論し、情報を共有する。

コーディネーター 村上 正行氏 京都外国語大学 外国語学部 教授
 報告者 濱田 敏彦氏 広島経済大学 経済学部 教授/興動館科目創造センター長/教育学習支援センター長
 伊吹 勇亮氏 京都産業大学 経営学部 准教授
 伊與田宗慶氏 大阪工業大学 工学部機械工学科 講師

第12分科会

定員30名 優先定員18名

ビジネスと学部ゼミ活動

わが国において、いわゆる文系の大学生は、卒業と同時に企業に就職する機会が多い。そのため、学部教育においても、ビジネスの概要に触れたり、社会人基礎力を養う機会を提供したりすることも必要であろう。これらを通常の講義科目で行うには限界があり、ゼミ(演習)の指導内容に関連するものを、ゼミを通じて行うことが適切と考える。本分科会では実際のゼミ活動の取り組み事例を紹介しながら、その効果や可能性について考える。

コーディネーター兼報告者 足立 光生氏 同志社大学 政策学部 教授
 報告者 関 智宏氏 同志社大学 商学部 准教授
 岡村 秀夫氏 関西学院大学 商学部 教授
 秋吉 史夫氏 関西学院大学 経済学部 准教授

ポスターセッション サギタリウス館4階S401~S408教室

2日目 2018年3月4日(日)

ポスターセッション 11:00~14:30

コアタイム 12:00~13:30

ポスターセッションでは、大学コンソーシアム京都加盟校の教職員・学生が実施する特色ある教育に関する取り組みを発表します。新たな情報収集や、参加者間の交流の場としてご活用ください。コアタイムには、発表者がポスター前で参加者からの質問に答えます。

● 申込期間 2018年1月5日(金)～1月31日(水) 【参加費支払期限: 2018年2月9日(金)】

加盟大学・短期大学の先行申込期間 2017年12月15日(金)～12月22日(金)

先行申込期間終了後も1月31日(水)までお申込みいただけます。

※大学コンソーシアム京都に加盟する大学・短期大学の教職員・学生の方を対象に、先行申込期間を設けています。なお、先行申込期間中は、優先定員までの受付となります。加盟校以外の方は1月5日以降にお申込みください。

● 申込方法(事前Web申込) ※フォーラム当日の申込受付は行っておりません。

STEP 1 お申込み(先着順)

- ・申込みは先着順に受け付け、定員になり次第受付を終了いたします。キャンセル待ち受付は行っておりません。
- ・申込み手続き完了後は、分科会の変更ができませんのでご注意ください。
- ・申込み手続き及び参加費の支払いが完了していない方は参加できません。

- 1 下記のURLから「メールアドレス確認(入力)フォーム」にアクセスし、メールアドレスを入力・送信してください。
- 2 「参加申込フォーム」のURLをお送りしますので、メールに記載のURLにアクセスし、画面の指示に従って申込み手続きを行ってください。申込み手続き完了後に「申込完了メール」を送信します。

※「参加申込フォーム」URL通知メールが届かない場合は、メールアドレス誤入力の可能性があります。その場合は、お手数ですが、「メールアドレス確認(入力)フォーム」を再入力・再送信してください。

STEP 2 参加費のお支払

【参加費支払期限: 2018年2月9日(金)】

申込み手続き完了後、払込票をお送りします。
期日までに、コンビニエンスストアで参加費をお支払いください。払込票の取り扱い可能店は払込票の裏面に記載しております。
銀行・ゆうちょ銀行などの金融機関ではお取り扱いができませんのでご注意ください。

※お支払いいただく参加費につきましては、印刷費、WEBシステム運営費、通信費など、諸準備に使用いたします。いかなる理由があっても返金等には応じられませんのでご了承ください。参加費をお支払いいただいた報告集ご希望の欠席者の方へは、報告集を送付いたします。(6月下旬発送予定)

STEP 3 参加証(メール)の受領

参加費のお支払いが確認できましたら、参加証(メール)をお送りします。
2月17日(土)までに参加証(メール)が届かない場合は、FDフォーラム事務局までお問い合わせください。

STEP 4 当日 参加証(メール)持参

プリントアウトした参加証(メール)をご持参のうえ、受付にご提示ください。
※代理の方が参加される場合は事務局にご連絡ください。

● 参加費用

所属	区分	シンポジウム・分科会	情報交換会	シンポジウム・分科会 + 情報交換会
加盟 大学・短期大学	教職員	3,000円	4,000円	7,000円
	学生(大学院生会)*	無料	2,000円	2,000円
非加盟 大学・短期大学 その他団体・企業等	教職員 一般	5,000円	4,000円	9,000円
	学生(大学院生会)*	1,000円	2,000円	3,000円

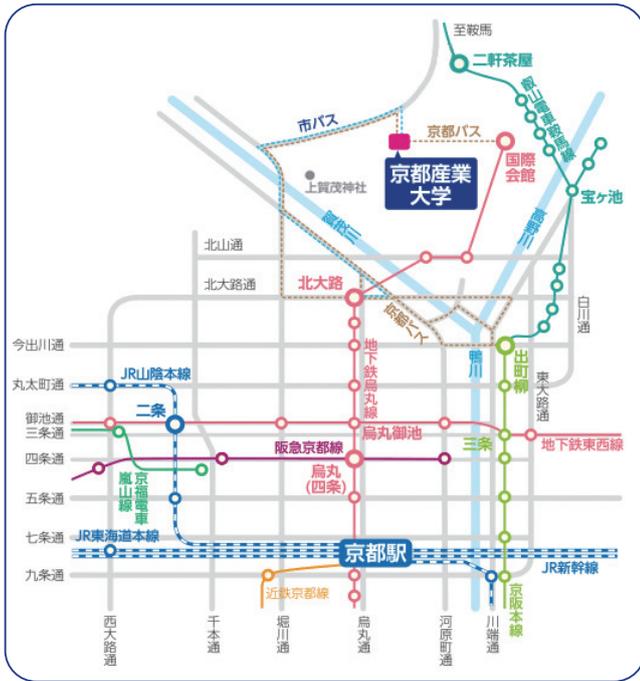
*学生の区分に、社会人の通信教育生は含みません。

URL <http://www.consortium.or.jp/project/fd/forum>

もしくは



●会場へのアクセス



■JR京都駅(地下鉄京都駅)・阪急烏丸駅(地下鉄四条駅)から
 地下鉄で「国際会館駅」下車→京都バス(40系統)で「京都産業大学前」下車
 地下鉄で「北大路駅」下車→市バス(北3号系統)で「京都産大前」下車
 ※当日は、京都バス「国際会館駅前⇄京都産業大学前」を増便いたします。
 (運賃200円。チャーター便ではございません。フォーラム参加者以外の方も利用します。)

■京阪出町柳駅から
 京都バス(広河原32・静原・城山34・市原35・京都産業大学 36)で
 「京都産業大学前」下車

学内には駐車場がございません。ご来場の際は公共交通機関をご利用ください。



京都産業大学バスプール

大阪	大阪駅より	JR 約28分	京都	地下鉄烏丸線 約20分	国際会館	京都バス 約9分		
	なんば駅より	地下鉄 約9分	梅田	阪急 約40分	烏丸 四条	地下鉄烏丸線 約16分	国際会館	京都バス 約9分
	淀屋橋駅より	京阪 約54分			出町柳	京都バス 約30分		
	天王寺駅より	JR 約13分	京橋	京阪 約48分		出町柳	京都バス 約30分	
	兵庫	三ノ宮駅より	JR 約51分	京都	地下鉄烏丸線 約20分	国際会館	京都バス 約9分	
	滋賀	長浜駅より	JR 約69分	京都	地下鉄烏丸線 約20分	国際会館	京都バス 約9分	
奈良	奈良駅より	近鉄 約38分	竹田	地下鉄烏丸線 約26分	国際会館	京都バス 約9分		



国際会館駅前バスターミナル 2番乗り場



京阪出町柳駅バスターミナル



地下鉄北大路バスターミナル 地下2階A乗り場

第23回FDフォーラム企画検討委員会 ★…委員長 ☆…副委員長

- | | |
|------------------------------------|---------------------------|
| ★佐藤 賢一 京都産業大学 総合生命科学部 教授 | 西野 毅朗 京都橘大学 教育開発支援センター 講師 |
| ☆鳥居 朋子 立命館大学 教育開発推進機構 教授/大学評価室 副室長 | 葉山 勉 京都精華大学 デザイン学部建築学科 教授 |
| 足立 光生 同志社大学 政策学部 教授 | 平田 豊誠 佛教大学 教育学部 准教授 |
| 上野 嘉夫 京都薬科大学 基礎科学系 教授 | 藤田 和弘 龍谷大学 理工学部 教授 |
| 大川 淳 京都ノートルダム女子大学 人間文化学部英語英文学科 講師 | 藤田 義孝 大谷大学 文学部国際文化学科 准教授 |
| 斎藤 有吾 京都大学 高等教育研究開発推進センター 特任助教 | 村上 正行 京都外国語大学 外国語学部 教授 |
| 道和孝治郎 京都学園大学 経済経営学部経済学科 准教授 | 山本 真一 京都文教大学 総合社会学部 准教授 |

●お問合せ先



〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下るキャンパスプラザ京都内
 教育開発事業部 FDフォーラム事務局
 TEL:075-353-9163 (火~土 9:00~17:00※年末年始を除く)
 FAX:075-353-9101 E-mail:fd@consortium.or.jp